

2007. 2.17

## 体験・調査・社会認識

### あたりまえの教育 (その6)

鳩ヶ谷支部

小林幸雄

読点

## はじめに

### 1、ここでの私の立場 3つ

①中学の障害児学級においては、教育課程の「教科」として「社会科」をおくという立場。

ここで、教育課程の全体像についての課題がある。障害児教育一般で議論するにはあまりにも大雑把になる。やはり、目の前の子どもに応じて、どういう構想をもったのか。そこから、教育課程を考えることになる。生きる力として、当面の子どもたちの課題を考える。その場合、短絡的に就職と直結していく方向あり。それに対抗して、基本的な教養を。ともに、生きる力を考えているが、どこに分岐点があるのか。それを見極めつつ、人として、今この社会で生きるという場合の基本とは何か。それを追求していく場合、やはり教育者自身の社会認識が問題となる。日本国憲法の基本に立脚して、人権・国民主権・平和を、教育の基本に貫く。そこから言語・自然認識・社会認識の課題を教育課程に設定する。

#### 資料 1

②そして、その社会科は、障害児の発達段階を考慮して、小学校社会科のある段階の内容を学習しようというのではなく、あくまでも中学校の社会科をやろうという立場。ここでの中学校社会科の内容は、3分野を意識し、歴史と地理と政治・経済を含んでいる。

ここでも社会科の全体像が課題となる。どういう社会科なのか。中学3分野を意識しつつ。その単なる省略体ではなく、ひとまとまりの知識群。地域にこだわる。どこで、どことの関係で。どう結びつくのか。遠い・近い・広い・狭い・高い・低い・早い・速い・遅い・太い・細いなど。つまり、知識の洗い直し・知識の構造の見直しの課題。

発達段階なのか、知識の関連を手練り寄せつつ、一つながりの知識をつかむというやりかたを通じて、障害児学級の社会科論への接近。

#### 資料 2

③他方で、社会認識の教育が可能な領域を見出し、どこでもそれを追求するという立場。・・・というより、社会認識の形成を総合的にすすめるには、教育課程全体の視野が必要であり、社会認識の形成の教育に位置づけ、意識的に実践を展開するとうこと。

ここでは2を踏まえて、その形成の場を、学校教育の全体のなかに位置づけ、教育者・支援者としての課題をつかむこと。社会認識そのものの構造的な理解をもとに、それが1時間の授業の積み重ねだけでなく、特別活動の諸分野でも課題とすることができること。

上記①と②の統一という視点とも重なるか。

#### 資料 3

### 2、社会認識の内容

社会認識の形成・・・社会認識の基礎的なイメージ(私案)

- ① ひとびとのことに関心を持ち、知ろうとする。
- ② 自分と他人、ひとびととのつながりを知り、違いや区別がわかる。
- ③ つながりには、様々なあり方があることを知る。
- ④ つながりの総体(社会)について意識する。

- ⑤ 社会には、色々な事件がおきていることを知る。
- ⑥ 事件のおきる「わけ」があることを意識する。
- ⑦ 社会への価値判断(正・不正、良・悪、益・害、好・悪など)を、事実にもとづいて行う。
- ⑧ 社会には「うそ」というものがあることを知る。

ここから、「うそ」は悪いという価値を学ぶのではなく、「うそ」の社会科を学ぶ。

- ⑨ 社会には時間(歴史)があり、社会生活が展開している空間(自然・地域)がある。社会事象の場。

社会認識の意味・・・人間にとって社会認識とはどういう意味をもち、どういう機能を果たしているのか。すべての人間はある社会認識を持っている。それはすべての人間が社会的な存在だし、社会的な関わりの中で人間になるからです。

コメント

- ① 他への好奇心・・・おもしろい他者・めずらしい他者の発見
- ② つながりの発見、関係を発見しよう。あなたと私、私と彼、どうつながっているのか。《ちがひ》の発見、《違い》の前提は、《同じ》の発見がある。《同じ》から《違い》へ。この進み方。
- ③ つながりをたくさん発見する中から、つながり方の違いがわかってくる。そこから、様々なあり方が見えてくる。様々な性は、一定の整理のうえに、型のようなものが見えてくることを意味している。ただいろいろあるというのと違う。量の中に質を発見しているのだ。
- ④ 総体が見えてくるとは、どういうことか。ここではさらに、単なる量の集積ではない。さらに、質の見極めが必要になる。どういう質・異質、様々な関連、様々な関係、矛盾、闘争、調和、妥協、合意。
- ⑤ 事件とは。日常とは違うもの。生命・財産・人権の侵害。
- ⑥ 「わけ」をつかむことには、原因と結果＝因果関係や理由を問い、答えるという経験の積み重ねが必要だ。日常の生活の中でそれがどう積み重ねられているか。学校でも。問答無用の精神では、このみちは切り開けない。
- ⑦ この社会では、倫理的なものは存在しているのか。「何でもあり」を批判する規準自体が揺れている。「何でもあり」な状況に一番責任を持つものは誰か。教育者の社会認識が問われている。
- ⑧ 根本的な「うそ」は、どこにあるのか。
- ⑨ 全ての基礎。

3、しかし、目の前の障害児において社会認識を獲得していく場合の様々な困難がある。というより、「深化」させていく上での困難ととらえます。・・・それは以下のとおり

- ① 言葉だけのまとめは難しい。  
課題＝どういう言葉をどういう方法で獲得していくか。  
言葉ではなく、ほかの手段で認識する。
- ② 関連の思考が難しい。  
課題＝「関連をとらえる」練習が必要だ。
- ③ 因果をとらえることが難しい。  
課題＝「原因と結果で考える」練習がやはり必要だ。

- ④ 話し合いが難しい。  
課題＝他人の言葉を聴き、対話することを、毎日、生活のなかで繰り返す。  
言葉だけでなく、他の手段でもコミュニケーションをとる。コミュニケーションの活発化。

4、その困難を克服するために今のところとってきた方法は以下のとおり

- ①言葉ではなく絵画的な手段(資料として、表現として)をとる
- ②その系 地図をよみ地図を描く
- ③用語のカード化、カードで現実を読む・考える。
- ④時事問題を取り入れる。戦争の現実に向き合う。
- ⑤体験活動を組織し、そこから社会認識にせまる。

5、社会性・社会力・社会認識のこと

### 社会性と社会認識についてのメモ

社会性の定義・・・

A 「個人が存在する社会のなかにあるルールやふるまい方を身につけ」「自分らしく生きていくこと」。「社会化」と「自己形成」(一松麻実子著『人と関わる力を伸ばす』)

B 「社会の中でうまくやっていく術にたけていること」「社会に適応する術」＝社会性。それに対し「社会を作り変革していく力」＝社会力。(門脇厚司著『子どもの社会力』)

社会力・・・よかれと思う社会を構想し、それを作り、運営し、その社会をさらにいいものに変えていく力

その下地として「十全な他者認識や他者への共感能力」(門脇 前掲著)がある。

社会認識・・・社会についての知、社会についての知識とそれをつかむ過程。(ある辞書から)

以上から、次ような相互関連を考えた。

社会性＝社会認識→社会力＝社会認識

(注) 社会へのスタンス(社会性・社会力)には、それぞれに見合った社会認識がある。

ここで、「見合った」というのは、社会認識の量だけではなく、量とともに質が関係しているという把握がある。

また、

社会性は不要ではなく、社会力へ突き抜ける必要がある ととらえる。

(06824補正)



平成18年4月14日

平成18年度 鳩ヶ谷中学校複式学級保護者会資料

1、今年度の活動内容

- 1, 自立の基礎である健康の増進と体力の向上を目指して、毎日体育の授業（週5時間）を設定した。
- 2, 国・数など学力の基礎の充実をめざしつつ、社会科や理科の領域の学習をすすめ、はば広い教養を身につけられるようにした。
- 3, 音楽や美術など、芸術的な教科も重視し、人間の文化的な力の形成をねらった。
- 4, 自立を見通し、生活に根ざした学習活動を重視した。  
調理実習の充実と結びつけた買物、食の教育を通しての健康管理、環境整備（そうじなど）、余暇の過ごし方、作業学習（仕事の練習）、公共機関（図書館・交通機関など）の利用の仕方、集団生活のルールの理解など
- 5, 自立活動の充実  
個別の指導計画を作成し、健康の保持・心理的な安定・環境の把握・コミュニケーションをはかる。
- 6, やさしい心を持ち、場に応じたコミュニケーションをとり豊かな表現力を培う活動をおこなう。  
ことば使いや、あいさつ、マナー、仲間づくり、生徒会（委員会活動）への参加
- 7, 情報化、国際化などの社会の変化に応じた学習活動を取りあげる  
パソコンを使った学習、インターネットの利用、AETによる英語の授業、ニュース・新聞を使つての学習
- 8, 進路指導の充実  
個々の希望に基づき、具体的な進路について調べる活動や職業体験などを通じて、自らの進路を切り開く活動をすすめたい。

2、1年間の主な流れ

- 4月19日～24日 家庭訪問
- 5月 校外学習
- 6月 3日 土曜参観・部活動懇談会
- 6月14日～16日 修学旅行（3年生）

5

- 6月27日 地区懇談会
- 7月 7日 期末保護者会
- 7月18日 給食終了
- 7月20日 1学期終業式
- 7月21日～23日 林間学校（2年生）
- 9月 1日 2学期始業式
- 9月16日 運動会
- 9月30日 学習発表会
- 10月 複式校外学習（半日）
- 10月～11月 クラス合宿
- 11月 2日 写生会
- 11月 9日 ロードレース大会
- 11月15日～17日 職場体験
- 12月 8日 授業参観・保護者会
- 12月19日 給食終了
- 12月22日 2学期終業式
- 1月 9日 3学期始業式
- 1月 1月 もちつき大会
- 2月 9日 百人一首大会
- 2月～3月 授業参観
- 3月15日 1年校外学習・複式の校外学習（半日）
- 3月16日 卒業式
- 3月20日 授業参観・保護者会
- 3月26日 給食終了
- 3月26日 修了式

3、学習形態

- 国語・算数 週4、5時間
- A ①松川・飯ヶ谷・小林…井上  
②上田・白濁・前田…滝沢  
③吉本・戸坂・松浦…小林
- 体育 週5時間 全員 担当 滝沢プラス1  
理科 週1時間（1学期） 全員 担当 鈴木・真 小林  
週2時間（2学期） 全員 担当 鈴木・田中啓 と小林  
美術 週1時間（1、2学期） 全員 担当 近藤文子 小林  
国語 週1時間（1学期） 全員 担当 紀田光哉 井上

6

資料 2

## 複式学級 社会科学習指導案

5月17日(水) 第4校時

場所 複式学級3の部屋

生徒 3年男子1名

2年男子1名 女子1名

1年男子1名 女子1名

指導者 小林幸雄

### 1, 単元名 学校・地域調べと地図づくり

### 2, 単元について

#### 生徒の状況

- A 3年・・・自信がなく、ことばがゆっくりしているが、1年の時から客観的な地図が描けた。
- B 2年・・・言語生活が、大人びているが、経験不足のため自信がない。他人への視線は厳しい。
- C 2年・・・感性が鋭く、思いやりも深い。地域の現実に疑問を持つ。
- D 1年・・・こだわりがあり、その枠をこえた言動には厳しい批判。
- E 1年・・・おしゃべりで、自己中心。時に固まる。それは無視された時、批判された時、困難な課題を迫られた時である。

#### 教材観

身近な地域学習を通じて、生徒の持っている社会認識の現状を把握し、課題設定を行う。その上で今後の指導計画の見直しを図る。(この単元の位置づけ)  
今回取り組む学校の地図は、目的的な地図(ある場所へ行く道案内的なもの)である。例示して書かせた。その上で見やすい地図づくり、役に立つ地図づくりなど、話し合い、視点を与える。

地域の地図は、描くことを課題とせず、地図を使って学習することにした。

地図学習の系統はどういうものか。5万分の1の地図(あまりにも合理的だし、地図としての極限形態だ)を念頭に置くことはやめ、もっと素朴なものを念頭において考えたい。

地図の最低の条件を考えたい。線・面・色・記号・最小限のことばなど、地図に盛り込む情報をこどもが出し合い、その方法を考えることから始めたい。さらに地図化の方法として、方位を意識することがある。

地図習得の方法として、描く前にたくさん読む(地図の鑑賞・読解など)ことがある。この場合も5万分の1の地図は使わない。むしろ、相互の地図の鑑賞からはじまる。

#### 指導観

社会認識の形成・・・社会認識の基礎的なイメージ(私案)

- ① ひとびとのことに関心を持ち、知ろうとする。
- ② 自分と他人、ひとびととのつながりを知り、違いや区別がわかる。
- ③ つながりには、様々なあり方があることを知る。
- ④ つながりの総体(社会)について意識する。
- ⑤ 社会には、色々な事件がおきていることを知る。
- ⑥ 事件のおきる「わけ」があることを意識する。
- ⑦ 社会への価値判断(正・不正、良・悪、益・害、好・悪など)を、事実にもとづいて行う。
- ⑧ 社会には「うそ」というものがあることを知る。  
ここから、「うそ」は悪いという価値を学ぶのではなく、「うそ」の社会科を学ぶ。
- ⑨ 社会には時間(歴史)があり、社会生活が展開している空間(自然・地域)がある。社会事象の場。

社会認識の意味・・・人間にとって社会認識とはどういう意味をもち、どういう機能を果たしているのか。すべての人間はある社会認識を持っている。それはすべての人間が社会的な存在だし、社会的な関わりの中で人間になるからです。

#### コメント

- ① 他への好奇心・・・おもしろい他者・めずらしい他者の発見
- ② つながりの発見、関係を発見しよう。あなたと私、私と彼、どうつながっているのか。《ちがひ》の発見、《違い》の前提は、《同じ》の発見がある。《同じ》から《違い》へ。この進み方。
- ③ つながりをたくさん発見する中から、つながり方の違いがわかってくる。そこから、様々なあり方が見えてくる。様々な性は、一定の整理のうえに、型のようなものが見えてくることを意味している。ただいろいろあるというとは違う。量の中に質を発見しているのだ。
- ④ 総体が見えてくるとは、どういうことか。ここではさらに、単なる量の集積ではない。さらに、質の見極めが必要になる。どういう質・異質、様々な関連、様々な関係、矛盾、闘争、調和、妥協、合意。
- ⑤ 事件とは。日常とは違うもの。生命・財産・人権の侵害。
- ⑥ 「わけ」をつかむことには、原因と結果＝因果関係や理由を問い、答えるという経験の積み重ねが必要だ。日常の生活の中でそれがどう積み重ねられているか。学校でも。問答無用の精神では、このみちは切り開けない。
- ⑦ この社会では、倫理的なものは存在しているのか。「何でもあり」を批判する規準自体が揺れている。「何でもあり」な状況に一番責任を持つものは誰か。教育者の社会認識が問われている。
- ⑧ 根本的な「うそ」は、どこにあるのか。
- ⑨ 全ての基礎。

#### 単元の年間構成

7

8

《地理的分野》

- ①日本・世界の地図を読む
- ②学校・地域調べと地図づくり
- ③鳩ヶ谷市でがんばっている人

《歴史的分野》

- ①前近代の歴史
- ②近代の歴史
- ③現代の歴史

《公民的分野》

- ①日本国憲法と平和主義
- ②国民主権
- ③基本的人権
- ④税金
- ⑤物価と価格
- ⑥アジア・世界・日本

3, 単元の目標と評価の視点

(1) 単元の目標 地図を描くことを通じて、学校や地域を構成する人間の活動に注目する。社会的な人間の発見につながることを見通して、人間の仕事や役割に注目する。学校では校務分掌、地域ではそれぞれの建物の機能分類から社会的な分業の実態に触れる(お店・住宅・医院・公的な施設など)

(2) 評価の視点

関心・意欲・態度・	話す・聞く・インタビューする	地図を描く能力	資料を探し、読む力	知識・理解・技能
学校・地域についての関心・意欲・態度	学校や地域の人々と出会い、話しをする	地図の約束を意識し、それに対応して描く	目的に沿った資料を使う	学校・地域についての理解を深める

4, 指導計画

1) 学校探検と地図づくり・・・2時間

2) 地域の地図づくり・・・2時間 (2/2・・・本時)

- ・自分たちの生活圏から、地図に書き入れたいものな名前を出し合い、そのカード化を行う。
- ・地図(白地図)にカードをはる位置を確認し、貼り付ける。

3) 地域を調べる・・・2時間

商店・公的な施設(公民館・図書館・市役所など)・自然など

5, 本時の指導案

- 1) 目標 地図にカードにしたものの名前を貼り付ける。  
地域調べの課題を形成する。

2) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点・評価	資料
導入	地図のゲーム カードの確認	1年生の参加がポイント ことばの確認(おおまかに分類しながら、分類は以下の展開の場所に記述する)	ゲーム用の横造紙 カード
展開	1, 白地図の提示 2, カードに書かれたものの場所を確認し貼り付けて行く。 1) 学校 2) 公的な施設 3) 商店・スーパー 4) 寺・神社 5) 個人の家	白地図の範囲を確認する。 場所の確認の際は、鳩ヶ谷中学校など身近で多くの生徒がよく知っているものから、確認していく。 各生徒が何を探るか、あらかじめ想定しておく。 1年が重点である。Dは桜小学校、里小学校から。 Eは桜小学校など。前時の話合いの状況を踏まえて、考える。	白図(5000分の1) カード
まとめ	次の時間=地域調べにつなげるように、調べたい課題をたてるようにする。以下、その予想。 知らないもの(埼玉植物園てお客さんが少ないけど、何をやっているのだろう)・知りたいもの(市役所は何をしているの?市長さんとはよく会うけど、どういう仕事をしているの?)	課題が出てくれば、この授業は成功とする。地図を使って学習活動をし、問題意識が形成されたかどうかの評価の分かれ目。 出てきた課題・問題・疑問などは板書する。ことばの断片・文なんでも。	

6, 備考 男子 3名 女子 2名 (その学年構成等は上記した)

資料3

06複式合宿コースの細案

1, コースの概略 18日 中学校校門 集合 7:45

出発 8:00 (始めの会のあと)

埼玉古墳群・同資料館見学・昼食 9:45 着

048-559-1111

リュックに入れるもの=弁当・水筒・筆記用具・カメラなど

トイレ (着いた時と、出るとき)

1, 学芸員さんからの話し

2, 資料館の見学

3, 古墳群を歩く まず將軍山古墳をめざす  
途中 二子山古墳 をみて  
將軍山古墳の展示室に入る  
その後、稲荷山古墳に行き、登る。  
丸墓山古墳は、体力のある者だけ。  
その他は、**弁当を食べる場所**へ直行。

4, 弁当 11:20 ~ 11:50

5, 出発 12:00 トイレ

12:00 発

丸木美術館見学 12:50 着

0493-22-3266

1, 入館 時間を指定する。トイレ 10分

2, 見学 一緒に移動しながら、見学する。正味30分か

3, 退館 **駐車場への移動時間** (10分か) トイレ

13:50 発

川の博物館見学 14:30 着

048-582-7333

1, アドベンチャーシアターへ 14:40 予約済み

2, その後、館内を見学 15:20 から 30分

**第1展示室を中心に?**

16:00 発

秩父市 農園ホテル 17:00頃 着

ナチュラルファームシティ農園ホテル 0492-22-2000

411 井上

412 松浦 白濁 前田 井上

415 上田 吉本 飯ヶ谷 小林

416 戸坂 小林 松川 滝沢

417 小林 滝沢

512 校長

入浴 17:30~18:00

夕食 18:30~19:30

夜のレク 19:30~20:30

自由 20:30~21:00

就寝準備 21:00

消灯 21:30

19日

起床 6:00

洗面・散歩など

朝食 7:00

農園ホテル 8:30か45 発

秩父乳業 0494-62-5088 見学 9:00 着

9:45 発

両神村地域資源活用センター0494-72-8080

こんにゃく作り 10:30 着

昼食 11:50~

12:30 発

東秩父村 大内沢観光みかん園 0493-82-1041 14:15 着

14:45 発

学校 17:00 着

分担案

渉外

集団指導・あいさつ

係指導

記録ビデオなど

小林

滝沢

井上

石井校長

資料

鳩ヶ谷を調べる 06. 6より

M・・・図書館

S・・・保育園 (入るときの手続き・遊具の種類・保育の資格=どういう勉強、どこで)

本屋 (お店の本何冊・本の仕入れ法・値段の決め方・売れ残り)

U・・・ブルドックソース (1日何本作りますか)

土屋商店 (何を売っていますか・お客さんは誰・売れ行きは)

I・・・中居小・桜小・鳩小

T・・・鳩ヶ谷駅 (切符売り場の仕組み・なぜ切符は高いの・切符のお金の使い道・切符販売機の仕組み・改札機の仕組み・地下鉄はだれが、いつ、どうして作ったか・トイレにトイレットペーパーがないのはなぜ)

K・・・市役所 (どんな仕事をしていますか・市役所の1階から7階まで何がありますか・市長さんの1日・監視カメラはついていますか・市長さんに質問=地球温暖化についてどう考えますか)

芝川

Y・・・西友ストア (いつできたの・売ってる品物の種類・値段の決め方・どこから仕入れている・名前の由来・秘密の道や場所は・ゲームプリクラもっと安くなりませんか)

M・・・ペットショップ (シートは1日に何回替えるのですか・売ってる犬の種類・いくらですか・仕入れはどこから・犬や猫は洗っていますか・犬や猫の飾りいくらですか)

M・・・同上

社会認識形成のための方法論として メモ (2004.7.26) の改訂・増補 (06727)

1、 話し合いの成立の場面で

- ① 様々な分担で ジャンケンの結果での合意
- ② 文章の読み取りから質問・意見形成の話し合い=生徒総会への参加・発言  
生徒会の議案書・国語教材
- ③ 本の読み聞かせから、発問し考えさせる  
絵本の読み取りから話し合い
- ④ 数学の話し合い・・・計算のやり方の根拠
- ⑤ 社会科での話し合い 意見の出し合い

2、 絵・写真から情報を受け取り、絵として表現する

- ① 調理実習の手順図を模写する
- ② クラス合宿の事前学習 埴輪 (写真をもとに絵を描く)  
秩父事件の絵の模写
- ③ 修学旅行の事前学習 仏像の模写
- ④ 戦争学習で 東京大空襲の絵本の模写

×厚紙の図  
↓  
×紙の図

3、 地図を描く・・・地図を読み取り、地図を描く

- ①何を描くか 学校内の地図  
学校から家までの地図・・・近い家と遠い家 (難易度の差)  
学校から図書館までの地図
- ②学び合いは成立する・・・ある生徒の変化
- ③どう描くか・・・読み取りから始める。何が、どこにあるか。自当てになる地形・施設などから広げていく。地図の約束を次第に発見していく。

4、 テーマを担う他者への働きかけとしてのインタビュー

- ① テーマに基づいて質問を考える
- ② 質問→回答の連鎖の中から学ぶもの

5、 調理実習から学ぶもの

物との対話

調理の歴史 (協同、積み重ね、味) を踏まえて

食材に現われた社会関係

生産・流通・販売